

①-6 外国人

1. 目的

私たちの暮らしの中で外国人と接する機会は増え、国際化はとても身近なこととなりました。しかし、言葉の問題や文化・生活習慣の違いなど様々な課題を抱えながら生活している外国人も少なくありません。

ここでは、外国人との今までの出会いや経験を通して、共に生きる社会の実現にむけて、地域でできることについて考えてみましょう。

2. 進め方（ワークシート活用例）

ワーク

進め方とファシリテーターの視点

I

- 資料①、②を参考にして、滋賀県に住んでいる外国人の人数や特徴について考えましょう。

《視点1》

- ・平成2年（1990年）、法律改正により日系人とその家族に定住者の在留資格が認められ、南米国籍の日系人を中心に外国人登録者数が増加しました。
- ・平成20年（2008年）秋以降の経済危機により、製造業の現場で就労していた多くの外国人が失業し、帰国などにより外国人の人口は減少しましたが、平成27年（2015年）以降、再び増加傾向が続きました。令和3年（2021年）は新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐための入国制限により減少しましたが、令和6年（2024年）は東南アジアからの外国人労働者が増えたこともあり、外国人人口は過去最多となりました。

《視点2》

- ・終戦前から日本で暮らしている朝鮮半島出身者やその子孫の方々に対する偏見が根強く存在し、様々な差別となって現れています。その人々が日本で暮らす歴史的背景を理解し、多様な文化や習慣を尊重しながら共生していくことが大切です。

II

- 1 外国人との出会いや日常的な関わりについて聞いてみましょう。

《視点3》

- ・外国人県民との日常的なふれあいや交流、またはトラブルなどの例を出し合い、ワークⅢ「語り合いましょう できること」に話をつなげます。

- 2 あなたの地域が、外国人にとって住みやすいところになっているか、資料③のような課題があることに留意して、考えてみましょう。

《視点4》

- ・外国人県民にとっての課題は、同時に地域の課題でもあります。共に地域で暮らすための課題について出し合ってみましょう。

III

- 地域で共に暮らすために、どのようなことが必要か語り合いましょう。

《視点5》

- ・地域の現状や将来を考えながら、文化の「ちがい」を尊重し合い、「ちがい」をいかに、みんなが暮らしやすい地域にするために何ができるか出し合いましょう。

3. より深く学ぶために（資料）

- ・「滋賀県多文化共生推進プラン（第3次改訂版）」（滋賀県総合企画部国際課）
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/kokusai/10889.html>

滋賀県 国際文化共生

法務省 YouTube



人権啓発動画
「誰かのことじゃない
外国人編」